



文部科学大臣認定
日本版総合的社会調査共同研究拠点
大阪商業大学 JGSS 研究センター

統計分析セミナー 2011

JGSS 研究センターでは、統計分析のスキルアップを目指される大学院生、または研究者の皆さまを対象として、山口一男先生（シカゴ大学社会学部・教授）のご協力を得て、集中セミナーを開催いたします。
多数のご参加をお待ちしております。

■ 日時

2011年9月1(木) - 2日(金)
10:00 ~ 17:00(両日)

■ 会場

大阪商業大学 GATEWAY

■ 募集人数

50名(先着順)

■ 参加費

無料

■ 受講申し込み方法

申込用紙をメール、FAXまたは郵送にてJGSS研究センターまでお送りください。用紙はホームページからダウンロードできます。

■ 宿泊

U-コミュニティホテル(会場まで徒歩5分)が特別宿泊料金でご利用いただけます。ご予約の際に「統計セミナー」参加の旨をお伝えください。
URL: <http://www.u-community.co.jp/>

■ お問い合わせ

大阪商業大学 JGSS 研究センター
〒577-8505 東大阪市御厨栄町4-1-10
TEL: 06-6785-6013
FAX: 06-6785-6011
E-Mail: jgss@daishodai.ac.jp
URL: <http://daishodai.ac.jp/>

線形従属変数の場合の傾向スコアを用いる セミ・パラメトリックな統計的因果分析

講師: 山口一男 シカゴ大学社会学部・教授

研究分野: 量的データの分析方法論、ライフコースと職業キャリア、社会的ネットワーク、社会的交換、社会階層と社会移動、家族と就業の人口学、薬物乱用のプロセス、現代日本社会

1. AT(平均処理効果)とATT(処理群の平均処理効果)の2つの因果効果と2つの選択バイアスの反事実的な概念化と定義
2. 処理変数が2値の場合のATとATTのInverse Probability Weighting (IPW)法による推定
3. 回帰分析併用による2重にロバストな推定(ATとATTの双方について)
4. 処理変数が3値以上を取る場合への拡張
5. 因果効果の直接効果と間接効果への分解
6. 観察されない交絡要因がある場合への拡張: Heckman法との併用
7. DID(差分の差)法の因果分析としての性質
8. AbadieによるDID法の一般化
9. 従属変数の非線形モデルの場合の限界

ロジスティック回帰分析の知識を前提としています。

実際の応用例は、通常パネルデータを必要とする項目7と8を除き、JGSSデータに適用できる1-6を中心に行います。講義のハンドアウトは当日配布します。応用はSPSSを用いるので、参加者はSPSS(Advanced Modelsオプションを含む)がインストールされたノートパソコンをご持参下さい。